Searching PAJ Page 1 of 1

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

05-146296

(43) Date of publication of application: 15.06.1993

(51)Int.Cl.

```
C12N 15/56
C12N 9/38
C12N 15/70
//(C12N 15/56
C12R 1:01 )
(C12N 9/38
C12R 1:19 )
```

(21)Application number : 03-335904

(71)Applicant: YAKULT HONSHA CO LTD

(22)Date of filing:

27.11.1991

(72)Inventor: IINO TORU

SHIMAKAWA YASUHISA MORISHITA TAKASHI

(54) DNA FRAGMENT CONTAINING BETA-GALACTOSIDASE GENE AND PLASMID CONTAINING THE SAME DNA FRAGMENT INTEGRATED THEREINTO

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain a new DNA fragment, derived from a bacterium of the genus Bifidobacterium which has been cultured under complicated culture conditions and useful for mass-producing a new β-galactosidase. CONSTITUTION: A DNA fragment containing a gene, expressed by the formula, derived from Bifidobacterium.breve and capable of producing a β-galactosidase. The bacterium Bifidobacterium.breve is cultured, collected, treated with N- acetylmuramidase SG and a lysozyme, subjected to bacteriolysis by treatment with SDS and treated with a protease. Extraction with phenol is then repeated to take out a DNA by precipitation with ethanol. Furthermore, treatment with ribonuclease A is carried out and a chromosomic DNA is subsequently obtained by reprecipitation with ethanol.

```
CONTRACT DESCRIPTION DESCRIPTION OF SCHOOLS SECRETARY OF SCHOOLS O
   CICUTATUS EPRINCOPE CEDERATARA ERESTRACIA CIARLAGUA CARRESTERE
   AMERICAL RECEIPED SHEARTERS CONTROLL CHEETER TRANSPORT
   CHAPTERS ACRESSASSES COTTACTION TRANSPARED CONTINUE ARE DIM CAS
   den film the tips top too file big Lon din tip tip ign tro den life
                                                            19
    NAME THAT THAT COME SHAPE THAT HAVE THEN HAVE THEN COME CALL CALL AFTER THESE
   Tre Tyr Ally the Tor has bro day the the box tie the Yet Ide
   SHE WAS LIKE STA SHE FITE AND CHE SHE WER SHE WIT WILL FITE SHE HEL
   fich file dien bet bie bei ber ber file ber bie bie ben bei ben fal bee
CHEMINALA MENDARCHI CENTRACHEE STRUCTURE DESCRICTORE CONTRIBUTE
CHEMICAL INDIPATIO COMMENT CITABENA DICAGNIA CONTITACO
 KOTOKOS KUTUWA GARZIGIK GARARREN BUTUGIEK GARARREN
CONTROLLE MORROUTI CHARACHE CHILECOCCI CONTROLLE CONTROLLE
CONTROL BECOME A CLIENCIME PRESENT SECURIOR CANCELLOS
                                                                                                                                                              3441
CHANCEDRY LEGISLACIES LICHERAGES WETACOVICE LEGISLACIES SOCIALISTICS
CIUSCHIO REFERENCIA FRANCISCI FRANCISCI RESCRETA (GASTACA)
AND ARREST COURT CONTRACTOR OCTOPORATE ANTHOUGH THE ARREST TO
STITUATION TOWNSHILL CAMEDICAN CASTILLITY COLOCUTE: HOLDINGT'S
REPORTED REPORTED BETTERN DESCRIPTION OF THE PROPERTY
STREETAND GENERALE PARTIES. DESCRIPT CHARACTER LIBERARIE
```

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-146296

(43)公開日 平成5年(1993)6月15日

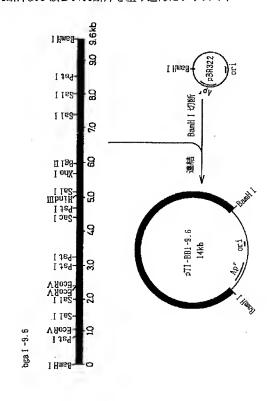
(51)Int.Cl. ⁵ C 1 2 N 15/56	識別記号 ZNA	庁内整理番号	FI	技術表示箇所					
9/38 15/70		7823-4B							
# (C 1 2 N 15/56		8828-4B	C 1 2 N 審查請求 未請求	15/00 A 対 請求項の数 2(全 12 頁) 最終頁に続く					
(21)出顧番号	特顯平3-335904		(71)出願人	000006884 株式会社ヤクルト本社					
(22)出願日	平成3年(1991)11	月27日	(72)発明者	東京都港区東新橋1丁目1番19号 飯野 诱					
			(12)36374	東京都港区東新橋1丁目1番19号 株式会社ヤクルト本社内					
			(72)発明者						
				東京都港区東新橋1丁目1番19号 株式会 社ヤクルト本社内					
			(72)発明者	森下 隆 東京都港区東新橋1丁目1番19号 株式会					
				社ヤクルト本社内					
			(74)代理人	弁理士 佐藤 正年 (外1名)					
,									

(54) 【発明の名称 】 β - ガラクトシダーゼ遺伝子を含む DNA断片及び該 DNA断片を組み込んだプラスミド

(57)【要約】

【目的】 ビフィドバクテリウム・ブレーベ(以下、B. ブレーベ)由来のガラクトオリゴ糖分解活性を有する β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むDNA断片及び該DNA断片を組込んだプラスミドを得る。

【構成】 乳糖及びガラクトオリゴ糖を加水分解する特徴を有するB. ブレーベ由来の β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むDNA断片及び該DNA断片を組込んだプラスミドであるため、 β – ガラクトシダーゼを大量生産することが可能となり、培養条件が複雑であったビフィドバクテリウムに由来する β – ガラクトシダーゼを、本発明により、培養が容易な大腸菌を使用して製造できるようになった。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 配列表1で表されるビフィドバクテリウム・ブレーベ(Bifidobacterium breve) 由来の β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むことを特徴とするDNA 断片。

【請求項2】 前記請求項1 に記載のDNA断片を組込んだことを特徴とする β - ガラクトシダーゼ遺伝子のDNA断片を組込んだプラスミド。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、ビフィドバクテリウム・ブレーベ($Bifidobacterium\ breve$) 由来のガラクトオリゴ糖分解活性を有する β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含む DNA 断片及び該 DNA 断片を含むプラスミドに関するものである。

[0002]

【従来の技術】近年、組換えDNA実験技術を中心とする遺伝子操作技術は急速に発展してきた。この組換えDNA実験技術を用い、バチルス・ステアロサーモフィルス(Bacillus stearothermophilus)、サーマス・アクアティカス(Thermus aquaticus)、ラクトバチルス・ブルガリカス(Lactobacillus bulgaricus)等の β -ガラクトシダーゼ遺伝子がクローニングされている(特開昭61-81788号、特開昭62-208285号、特開平2-5878号)。

【0003】β-ガラクトシダーゼはラクトースの分解 並びにガラクトース転移反応等を行う酵素であるが、手 軽に活性を測定できるので、分子生物学では殆ど一般的 な手法の一つとなっている。即ち、蛋白質や遺伝子融合 の検定を行う上で、反応の進行状況をβ-ガラクトシダ ーゼが生合成されるように仕組んだ実験を利用して判断 されている。これは、外来性DNA断片をβ-ガラクト シダーゼの産生に寄与する遺伝子領域に挿入するとβ-ガラクトシダーゼの産生がなくなることを利用するもの であり、培地中に5-ブロモー4-クロロー3-インド リルー β -D-ガラクトピラノシド(以下、X-gal と記す)を添加しておけば、外来性DNA断片が挿入さ れていないものは、これを分解して5-ブロモー4-ク ロロー3ーインディゴを形成し、菌体を染めて青いコロ ニーを作るのに対し、外来性DNA断片を挿入した組換 え体を持つ菌では、酵素を産生できず、コロニーは無色 で容易に選別できるものである。

【0004】ところで、ビフィドバクテリウムは動物の 腸管等に在住する細菌で、ヒトの健康にも密接な関係が あると言われている。また、発酵乳等の食品にも利用さ れる重要な細菌である。この菌は菌体内に複数種の β – ガラクトシダーゼを有しており、この中には乳糖に対し 強い加水分解活性を示す酵素分子と、乳糖よりもビフィ ズス菌増殖因子の一種であるガラクトオリゴ糖をより効 率よく加水分解する β – ガラクトシダーゼも存在するこ とが報告されている (馬田三夫 編(1988): ビフィズス菌の化学 56-63頁 株式会社ヤクルト本社発行)。しかしながら、本菌より β -ガラクトシダーゼ遺伝子がクローニングされた例は今までにない。

[0005]

【発明が解決しようとする課題】本発明者らは、鋭意努力の結果、ガラクトオリゴ糖の利用能を持つ細菌であるビフィドバクテリウム・ブレーベ(Bifidobacterium breve:以下、B.ブレーベと記す)菌からガラクトオリゴ糖の加水分解活性を持つ新規な β -ガラクトシダーゼを産生する遺伝子を取り出し、このDNA断片をベクターDNAに組込んだプラスミドを作成することによって、ガラクトオリゴ糖の加水分解活性のある新規な β -ガラクトシダーゼを大量生産することを可能にした。【0006】本発明は、B.ブレーベ由来のガラクトオリゴ糖分解活性を有する β -ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むDNA断片及び該DNA断片を組込んだプラスミドを得ることを目的とする。

[0007]

【課題を解決するための手段】本請求項1に記載の発明に係る β -ガラクトシダーゼ遺伝子を含むDNA断片では、B. ブレーベ由来の β -ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むものである。

【0008】本請求項2に記載の発明に係る β -ガラクトシダーゼ遺伝子のDNA断片を組込んだプラスミドでは、前記請求項1に記載のDNA断片を組込んだものである。

[0009]

【作用】本発明の β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子は、B. ブレーベ由来の β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子であり、ガラクトオリゴ糖分解活性を有する β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むDNA断片より産生される β – ガクトシダーゼは、乳糖及びガラクトオリゴ糖を加水分解する特徴を有している。このDNA断片を含むプラスミドを作製することで、この特異的性質を有する β – ガラクトシダーゼを大量生産することが可能となる。

【0010】B. ブレーベ由来の β -ガラクトシダーゼは、B. ブレーベ由来の β -ガラクトシダーゼ産生遺伝子から産生されるものであればよく、少なくとも β -ガラクトシダーゼ I 及びIIの2種類が得られた。具体的な β -ガラクトシダーゼ E を含む DN A 断片は、 β -ガラクトシダーゼ I をコードする遺伝子を含んだり β a I - β . 6及びこの遺伝子の一部であるり β a β . 8が得られ、 β -ガラクトシダーゼ I をコードする 遺伝子を含んだり β a β . 8が得られ、 β -ガラクトシダーゼ I の構造は後述する配列表 β に示すアミノ酸配列に含まれる。

【0011】また、B. プレーベ由来の β – ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むDNA断片を組込んだプラスミドとしては、具体的には β – ガラクトシダーゼ I をコー

ドするbgaI-9.6を組み込んだプラスミドpTI-BB1-9.6及びbgaI-3.8を組込んだプラスミドpTI-BB1-3.8が得られ、 β -ガラクトシダーゼIIをコードするbgaII-4.9を組込んだプラスミドpTI-BB2-4.9が得られた。尚、得られたプラスミドのうち、pTI-BB1-3.8は、微工研菌寄第12604号として寄託済み(平成03年11月14日)である。

【0012】本発明におけるオリゴ糖分解活性を持つ β -ガラクトシダーゼをコードするB. ブレーベの染色体 DNAは、次のようにして分離することができる。先 ず、B、ブレーベ菌を培養集菌し、Nーアセチルムラミ ダーゼSGとリゾチームとによる処理、SDS処理によ り溶菌させ、プロテアーゼ処理後、フェノール抽出を繰 り返し、エタノール沈殿によりDNAを取り出す。更 に、リボヌクレアーゼA処理した後、再びエタノール沈 殿により染色体DNAを得る。このようにして得た組換 え体プラスミドを、β-ガラクトシダーゼ遺伝子の欠損 した大腸菌に形質転換する。B. ブレーベのB-ガラク トシダーゼ遺伝子を含むDNA断片の組込まれたプラス ミドを保持する大腸菌組換え体は、X-galと形質転 換体選択のための薬剤を添加した寒天平板培地で培養し た後、 β -ガラクトシダーゼによりX-galが加水分 解を受けた結果生じる青色のコロニーを選択することに より得られる。

【0013】次いで、得られた組換え体からのプラスミドの分離は以下の方法で行う。プラスミドを保持する大腸菌を培養後、集菌する。菌体よりアルカリ法やクリアードライゼート法によりプラスミドDNAを得る。得られたプラスミドDNAは、再び大腸菌を形質転換できる。

【0014】上記のようにして得た大腸菌組換え体によって産生された β ーガラクトシダーゼが乳糖やガラクトオリゴ糖を加水分解する活性を持つことは、次のようにして確認することができる。

【0015】即ち、組換之体の培養菌体を超音波破砕し、遠心分離により未破砕菌体を除き、粗βーガラクトシダーゼ酵素液を得る。これを乳糖溶液並びにガラクトオリゴ糖(TOS-P:株式会社ヤクルト本社製)溶液に加え、37℃で一定時間保温した後、加水分解により遊離したガラクトース分子を定量する。ガラクトースの定量は紫外部吸光度測定法で行うことができる。本方法の原理は遊離ガラクトースにNAD(ニコチン酸アミド アデニン ジヌクレオチド 酸化型)存在下でガラクトース脱水粗酵素を反応させ、生じるNADH(ニコチン酸アミド アデニンジヌクレオチド 還元型)の量を紫外部吸光(340 nm)で計測するものである。これにより乳糖やガラクトオリゴ糖の加水分解の結果生じるガラクトースの量を測定できる。

【0016】本発明による上記β-ガラクトシダーゼ産

生遺伝子を含むDNA断片の塩基配列は、次に示す手順によって決定できる。 β – ガラクトシダーゼ遺伝子を含むDNA断片を、プラスミドベクターp UC 1 1 9 に挿入し、段階的欠失法によって段階的欠失を有する塩基配列決定用のプラスミドを作成する。得られたプラスミドにより大腸菌MV1184を形質転換し、形質転換体を液体培養する。培養途中でヘルパーファージを感染させ、段階的欠失のある1本鎖ファージDNAを得る。本1本鎖DNAを鋳型DNAとして、アプライドバイオシステムズ社のシークエンスキットを使用したダイデオキシ法で塩基配列を決定する。同社の373A型DNAシークエンサーで塩基配列を解読する。

[0017]

【実施例】以下実験例により本発明を具体的に説明する。

<u>実験例1. B. ブレーベ YIT4010からの染色体DNAの</u> 調製と切断

変法ロゴサ培地 (1%乳糖を含む) において16時間培 養したB. ブレーベ YIT4010菌の培養液80mlより菌 体を遠心により集め、20mMリン酸緩衝液(pH6. 9)で一度洗った。本菌体をO.8Mショ糖を含むリン 酸緩衝液80mIに懸濁した後、リゾチーム(200μ g/ml)とN-アセチルムラミデイスSG(20μg /m 1·生化学工業)を加え、37℃で20分保温して スフェロプラストを調整した。 4,000×g, 20分の遠 心で菌体を集め2mIのリン酸緩衝液に穏やかに懸濁し た。12.5mlの0.1M EDTAと0.75ml の1M Tris-HCI(pH7.5)を加えた後、 更に25%のSDS溶液1、2m1添加し溶菌させた。 【0018】65℃で1時間加熱処理し、デオキシリボ ヌクレアーゼを失活させた。これにプロテナーゼK(終 濃度200μg/m I:メルク社製)を加えてゆっくり と振盪しながら37℃で3時間保温した。等量のフェノ ール(TE緩衝液で飽和したもの)を加えて蛋白質の抽 出を2度繰り返した後、水層を分取し2倍量のエタノー ルをこれに重層して、界面に浮遊するDNAをガラス棒 で巻き取った。5mlのTE緩衝液に巻き取ったDNA を穏やかに溶解した後、リボヌクレアーゼA(終濃度1 00µg/m1)を加え、37℃で1時間保温した。再 び10mlのエタノールを重層して界面のDNAを集め た。再度TE緩衝液にこれを溶解しエタノールによるD NAの沈殿操作を二度繰り返した。DNAの沈殿を減圧 下で乾燥させ、これを少量のTE緩衝液に溶解した。8 Omlの培養液から約800μgの染色体DNAが得ら れた。

【0019】B. ブレーベ YIT4010の染色体 DNA2. 5μgに対し、制限酵素 Bam HIを30ユニット加え37℃で2時間消化した。消化した DNAはフェノール抽出、エーテル抽出、エタノール沈殿、80% エタノール洗浄により精製した。回収した DNAは減圧下で乾燥

した後、水に溶解した。

【0020】<u>実験例2. ベクターDNAの切断及び脱リ</u>ン酸化

プラスミド p BR 3 2 2 1.0 μ gに B a m H I を 1 0 ユニット加え、37℃で2時間消化した。消化したプラスミド DN A はフェノール抽出、エーテル抽出、エタノール沈殿、80%エタノール洗浄により精製した。回収した DN A は減圧下で乾燥した後、100 m M T r is - HC I (p H8.0)溶液 100μ I に溶解し、5 ユニットのアルカリホスファターゼを加え 37℃で 1 時間脱リン酸化反応を行った。反応後、フェノール抽出、エーテル抽出、エタノール沈殿、80%エタノール洗浄で DN A を精製した。回収した DN A は減圧下で乾燥した後、水に溶解した。

【0021】<u>実験例3. ベクターDNAへの染色体DN</u>A断片の挿入

上述した実験例1の染色体DNA断片と、実験例2のベクターDNAとを混合し、66mM Tris-HCI(pH7、5), 6、6mM MgCI, 1mMDT T, 1mM ATP, 5ユニットのT4 DNAリガーゼを加え、16Cで16時間反応させた。

【0022】実験例4.形質転換とβ-ガラクトシダーゼを産生する大腸菌組換え体の選択

上述した実験例3の反応液を β -ガラクトシダーゼ活性の欠失した大腸菌 JM109株に次の方法で形質転換した。ライゲーション反応液をコンピテントセルと混合し、氷水中に、20分間放置した後、42 に移して2分間保温し、再び氷水中に戻した。これを3m1のLB培地(塩化ナトリウム 0.5%、トリプトン 1%、酵母エキス 0、5%)に接種し、37 $\mathbb C$ で1時間振盪培養した。遠心により菌を集めて、 $40\mu1/m1$ の5ーブロモー4-クロロー3ーインドリルー β -Dーガラクトピラノシド(X-gal)、 $100\mu1/m1$ のアンピシリンを含むLB寒天プレート上に塗抹し、形質転換株を37 $\mathbb C$ で生育させ、 β -ガラクトシダーゼ活性の発現を示す青色のコロニーを33個得た。

【0023】実験例5、組換え体プラスミドの精製上述の実験例4によって選択した33株のβーガラクトシダーゼ発現クローンを各々アンピシリン(100μ1/m1)を含むLB培地3m1に接種し、16時間培養した。遠心により集菌後、アルカリ法でプラスミドを精製した。即ち、菌体を0.1mlの緩衝液A(25mMTris-HCl(pH8、0),10mMEDTA、15%ショ糖、2mg/m1 リゾチーム)に懸濁し、0℃で10分間保った。更に0.2mlの緩衝液B(0.2M 水酸かナトリウム、1%SDS)を加え0℃で10分間保った。3M 酢酸ナトリウムを0.125ml加え、0℃で更に20分間処理した後、25,000

× gの遠心により沈殿を除き、上清にリボヌクレアーゼ A(終濃度 $50\mu1/m1$)を添加して、37℃で30 分間保温した。フェノール抽出、フェノール・クロロホルム(1:1)抽出した後、水層を分取し、2倍量のエタノールを加えて、エタノール沈殿を行った。15,000× gの遠心により沈殿を集めた後、これを $40\mu1$ の水に溶解し、4 Mの塩化ナトリウム $10\mu1$ と13%(W/V)のポリエチレングリコール6000溶液 $50\mu1$ をそれぞれ加えて混合し、0℃で1 時間放置した。15,000× gで10 分間遠心し、DN Aを沈殿させた。DN Aの沈殿は80%のエタノールで一度洗浄した後、真空下で乾燥させ、少量の水に溶解した。

【0024】実験06.組換え体プラスミドの解析 上述した実験例5で得た33株のプラスミドDNAより、それぞれ 0.2μ g相当を分取し10単位の0.7 とかが10年ので2時間消化した。消化物を0.7 %アガロースゲル上で電気泳動し、臭化エチジウム水溶液 0.5μ 1/m1)に浸して染色した後、紫外線ランプ照射下で写真撮影した。33株のうち10株のプラスミドにおいて0.6k6 の挿入DNA断片が共通して認められた。また、残りの23株のプラスミドからは4.9k6 の挿入DNA断片が共通して認められた。

【0025】9、6kb並びに4. 9kbの挿入DNA 断片を挿入したプラスミドにより、再び大腸菌JM109株を形質転換すると、何れも β -ガラクトシダーゼ活性を発現した。このことよりクローニングした9. 6kbのDNA断片並びに4. 9kbのDNA断片が、何れも β -ガラクトシダーゼをコードしていることが確認できた。

【0027】図1はプラスミドpTI-BB1-9.6の構築を示す説明図であり、図に示すように9.6kbの挿入DNA断片(bgaI-9.6)とプラスミドpBR322とを連結してプラスミドpTI-BB1-9.6を得ることを示している。また、図2はプラスミドpTI-BB2-4.9の構築を示す説明図であり、図に示すように4.9kbの挿入DNA断片(bgaII-4.9)とプラスミドpBR322とを連結してプラスミドpTI-BB2-4.9を得ることを示してい

る。図1及び図2のDNA断片に示す通り、bgaI-9、6とbgaII-4、9との制限酵素切断地図について共通点はなく、両DNA断片は異なるβ-ガラクトシダーゼ遺伝子であることが確認できた。

【0028】<u>実験例7、βーガラクトシダーゼ粗酵素の</u> 調製

 β -ガラクトシダーゼIを産生する大腸菌組換え体JM 109(pTI-BB1-9.6)並びに β -ガラクトシダーゼIIを産生する大腸菌組換え体JM109(pTI-BB2-4.9)をアンピシリンを含む<math>LB培地10mIに接種し、37Cで16時間振盪培養した。6.00×g, 10分間の遠心により集菌後、菌体を1mIのリン酸緩衝液(20mM, pH6.8)に懸濁し、5分間超音波破砕機にかけ破砕した。超遠心(40000×g, 30分間)で破砕残渣を除き、上清を各 β -ガラクトシダーゼの粗酵素標品とした。粗酵素の蛋白質濃度はバイオラッド プロテインアッセイキット (Bio-Rad 社)により測定した。

【0029】<u>実験例8.β-ガラクトシダーゼI、IIの</u> 至適p Hの測定

【0030】 β -ガラクトシダーゼ Iの至適p Hは5. 6、 β -ガラクトシダーゼIIの至適p Hは6. 3 rあっ

た。37でにおいて1分間に1nmo1のニトロフェノールを遊離する活性強度を1ユニットとすると、至適р Hのリン酸緩衝液中で、 β -ガラクトシダーゼ1素酵素は 1μ g蛋白質当り、1. 36ユニット、 β -ガラクトシダーゼ1粗酵素は 1μ g蛋白質当たり0. 361ユニットの活性強度を示した。尚、ベクターpBR322のみで形質転換した大腸菌組換え体では活性は β -ガラクトシダーゼ活性は全く検出されなかった。

【0031】実験例9. β-ガラクトシダーゼΙ、IIに よる乳糖、ガラクトオリゴ糖の分解

同様に実験例7で得たβ-ガラクトシダーゼI、II並び に市販の大腸菌βーガラクトシダーゼを用いて乳糖とガ ラクトオリゴ糖に対する加水分解活性を比較した。5% (W/V)濃度の乳糖及びガラクトオリゴ糖(TOS-P:株式会社ヤクルト本社)を至適pHの100mMリ ン酸緩衝液に溶解したものに2ユニットのβーガラクト シダーゼを加えた後、蒸留水を加えて100μgとし た。市販の大腸菌β-ガラクトシダーゼ(東洋紡株式会 社) はZ buffer (エクスペリメンツ・イン・モレキュ ラー・ジェネティクス(Experiments in Molecular Gene tics), J.H. Miller p403 (1972)) を使用し、それぞれ3 7℃で1時間保温した後、3分間煮沸して酵素を失活さ せた。各β-ガラクトシダーゼにより加水分解された結 果、生じた遊離ガラクトース分子を紫外部吸光度測定法 (Fキット;ベーリンガー・マンハイム山之内株式会 社)で測定した。乳糖溶液と各β-ガラクトシダーゼを 作用させた時に遊離されるガラクトースの量を100と して、ガラクトオリゴ糖を基質とした場合に生じる遊離 ガラクトース量を相対値で次の表1に示した。

[0032]

【表1】

はい より ボニクしょが ば	加水分解により生じたガラクトース量の相対値							
使用したβ-ガラクトシダーゼ	乳糖(5%(W/V)	ガラクトオリゴ糖(5%(W/V)						
大腸菌βーガラクトシダーゼ	100	1 1						
JM109 (pTI-BB2-4.9)	100	8						
JM109 (pTI-BB1-9.6)	100	630						
JM109 (pTI-BB1-3.8)	100	700						

【0033】 8 - ガタクトシダーゼIIは市販の大腸菌 8 - ガラクトシダーゼと同様にガラクトオリゴ糖の加水分解活性の相対値は低かったが、8 - ガラクトシダーゼ I は乳糖を基質にした時に比べガラクトオリゴ糖を基質としたときに約6倍のガラクトースを遊離したことから、ガラクトオリゴ糖に対する加水分解活性が高いことが確認された。

【 0 0 3 4 】 <u>実験例 1 0 . β – ガラクトシダーゼ I 遺伝</u> 子領域の同定

図1に示したβーガラクトシダーゼ I 遺伝子断片 b g a I - 9.6を種々の制限酵素で切断して、欠失体を作成した。欠失DNA断片をプラスミドベクター p K K 2 2 3 - 3に挿入し、これらのプラスミドを用いて大腸菌 J M 108を形質転換した。各組換え体を X - g a 1を含

むLB寒天平板培地上に塗抹し、 β – ガタクトシダーゼ活性をコードするDNA断片を調べた。その結果、図3に示した3.8 k bのP s t I DNA断片があれば β – ガラクトシダーゼ活性の発現には充分であった。

【0035】本3.8kb断片はpKK223-3のPstIサイトへの挿入方向の違いにより、X-galを含むLB寒天平板上での青色の発色の強度に差が認められた。そこでpKK223-3への3.8kbDNA断片の挿入方向の違うプラスミドをそれぞれ大腸菌JM109に形質転換し、これらをLB液体培地に接種、培養し、ベクター上のtacプロモーターの誘導によりβ-ガラクトシダーゼ活性が上昇するか否かを調べた。即ち、対数増殖期まで37℃で振盪培養した菌体培養液を2等分し、一方にはIPTG(0.02mM)を添加し、もう一方は添加せず、それぞれ更に3時間振盪培養を続けた。

【0036】培養液中の β -ガラクトシダーゼ活性を0 NPGを基質にして調べると、ベクター上のtacプロモーターに対して一定方向に3. 8kbのDNA断片を挿入したプラスミドを保持する組換え体での β IPTG添加による β -ガラクトシダーゼ活性の上昇が認められた。即ち、ベクター上の β -ゼラクトシダーゼ I 遺伝子が順方向にクローニングされたプラスミドであることが確認でき、本プラスミドをPTI-BB1-3、8と命名した。図3はプラスミド PTI-BB1-3、8の構築を示した説明図である。【0037】本プラスミドを導入した β -ガラクトシダ

ーゼ I を誘導生産する大腸菌組換え体 J M 1 0 9(p T I - B B 1 - 3. 8)の培養菌体について、実験例 9 と 同様の方法で乳糖とガタクトオリゴ糖の加水分解活性を 調べたところ、乳糖の分解活性を 1 0 0 とした場合にガラクトオリゴ糖分解活性は 7 0 0 を示し、D N A 断片 b g a I - 9. 6を有する J M 1 0 9(p T I - B B 1 - 9. 6)を用いた場合とほぼ同じであった。以上のように、3. 8 k b の領域があれば、9. 6 k b のD N A 断片より産生される β - ガタクトシダーゼと同質の酵素が産生されることが確認でき、本領域内に β - ガタクトシダーゼ I の構造遺伝子が存在することが確認できた。

【0038】<u>実験例11、β-ガラクトシダーゼIの分</u>子量の測定

JM109(pKK223-3)及びJM109(pTI-BB1-3.8)を100μg/m1のアンピシリンを含むLB培地3m1に接種し、37℃で2時間培養後、IPTG(0.02mM)を添加し、更に3時間振盪培養した。培養液0.2m1を分取し、6.000×g、10分間の遠心により菌体を集め、2%のラウリル硫酸ナトリウム溶液に懸濁し、95℃、3分間の加熱処理で可溶化した菌体蛋白質を5%のアクリルアミドゲルで電気泳動した。電気泳動はレムリの方法(Laemmli,U.K.,Nature 227:680,1970)に準じて行った。β-ガラクトシダ

ーゼ I を発現しない対照として用いた J M 1 O 9 (p K K 2 2 3 - 3) の蛋白質のバンド以外に、J M 1 O 9 (p T I - B B 1 - 3 . 8) では分子量約7 5 O O O 9 ルトンに相当する蛋白質のバンドが検出された。本蛋白質が9 - ガラクトシダーゼ 1 であると推測された。

【0039】実験例12. β-ガラクトシダーゼ I 遺伝子の塩基配列の決定

実験例10のプラスミドpTI-BB1-3.800.2 μ gに対し、10单位のPstIで2時間消化し、1%のアガロースゲルで電気泳動した。ゲルを臭化エチジウムに浸して染色後、紫外線ランプ照射下で β -ガラクトシダーゼ遺伝子を含む3.8k bのDNA断片を含むゲル部分を切り取り、ゲル片よりジーンクリーン(BIO 101 Inc, California, USA)を使用してDNAを精製した。本DNA断片をプラスミドベクターpUC119のPstIサイトにDNAリガーゼを用いて連結した。

【0040】本プラスミドを大腸菌MV1184に形質 転換し、増幅、精製後、段階的欠失法により β -ガラクトシダーゼ I 遺伝子の部分欠失プラスミドを多種類作製した。本操作にはキロシークエンス用デレーションキット(宝酒造株式会社)を用いた。段階的欠失のある一本鎖 DNA を鋳型にしてアプライドバイオシステムズ社のジデオキシプライマー サイクル シークエンス キットを使用してジデオキシ法で β -ガラクトシダーゼ遺伝子を含む3. 8k b o DNA 断片の塩基配列を決定した。塩基配列の解析は同社の373 型 DNA シ-クエン サーで行った。

【0041】実験例10で明らかとなった遺伝子の方向性、及び実験例11で推測された分子量を加味し、決定した塩基配列より β -ガラクトシダーゼ1をコードする領域及びそのアミノ酸配列を推定し、後述する配列表1に示した。アミノ酸配列の推定にはGENETY遺伝情報処理ソフトウエア(SDCソフトウエア開発株式会社)を使用した。

[0042]

【発明の効果】本発明は以上説明したとおり、乳糖及びガラクトオリゴ糖を加水分解する特徴を有するB. ブレーベ由来の β -ガラクトシダーゼ産生遺伝子を含むDNA断片であり、該DNA断片を組込んだプラスミドであるため、 β -ガラクトシダーゼを大量生産することが可能となり、培養条件が複雑であったビフィドバクテリウムに由来する β -ガラクトシダーゼを、本発明により、培養が容易な大腸菌を使用して製造できるようになった。

【配列表】配列番号:1 配列の長さ:3870 配列の型:二本鎖 トポロジー:直鎖状 配列の種類:Genomic DNA

起源

生物名: e) 株名: YIT4010 配列の特徴 特徴を表す記号: - 存在位置: 174 179											特徴を表す記号: -10 signal 存在位置: 198 203 特徴を決定した方法: S 特徴を表す記号: RBS 存在位置: 212 217 特徴を決定した方法: S									
特徴を決定した方法											.,, _									
	配列																			
	GCAGAAGTAC TGGCAGTCCG GCCTCGCCGC AGGCGCCGTC AAGGAGTAAC CGTACTTCGG												60							
	CTCCCTTCTG GTGGAGGGAG CCGAGATAAA GGCATAACCA CTAACAGGAA GGAGGCGCCT													120						
		ATGCAGATAT TCGCATTGTT GAGAATCGTG CAGGCGCCTC CTTGCGTATC TGCGTGACTC													180					
	CCATTTGCCC ACACGTAGAT ATTTATTCAT TAAAGGAACA GCATCATC ATG GAA CA												237							
														I.H	eւ ա 1	lu His				
	CGC	GAA	TTC	AAG	TGG	CCG	CAG	CCT	СТТ	GCG	GGT	GGC	AAG	CCC	-	ATC	285			
		Glu																		
		5					10					15								
	TGG	TAC	GGC	GGC	GAC	TAC	AAC	CCC	GAC	CAG	TGG	CCG	GAG	GAA	GTC	TGG	333			
	Trp	Tyr	Gly	Gly	Asp	Tyr	Asn	Pro	Asp	Gln	Trp	Pro	Glu	Glu	Val	Trp				
	20		~			25					30					35				
		GAA															381			
	ASP	Glu	ASP	vai	40	Leu	met	GIN	Lys	45	GIY	vaı	ASN	Leu	va 1 50					
	GTA	GCC	ATC	ፐፐር		TGG	GCC	ΔAG	ርፐፐ		rrr	GAA	GΔΔ	GGT			429			
		Ala															747			
			•••	55	001	•••		, ~	60					65		• • •				
	GAC	TTC	GAT	TGG	CTC	GAC	CGC	GTC	ATC	GAC	AAG	CTC	GGC	AAG	GCC	GGC	477			
	Asp	Phe	Asp	Trp	Leu	Asp	Arg	Val	lle	Asp	Lys	Leu	Gly	Lys	Ala	Gly				
			70					75					80							
		GCC															525			
	lle	Ala	Val	Asp	Leu	Ala		Gly	Thr	Ala	Ser		Pro	Met	Trp	Met				
	ACC	85 CAG	ccc	CAC	ccc	CAC	90	ርሞር	TCC	ርሞር	CAC	95 TAC	ccc	ccc	CAC	CTC	E72			
		Gln															573			
	100	orn	niu	1113	110	105	110	DCu	11 6	10.1	110	1,71	nı 8	ulj	H	115				
		CAG	ССС	GGT	GTC		CAG	CAC	TGG	CGG		ACC	AGC	CCG	GTC		621			
		Gln																		
					120					125					130					
	CTT	GAC	TAC	GCG	CTC	AAC	CTG	TGC	CGC	AAG	ATG	GCC	GAA	CAC	TAC	AAG	669			
	Leu	Asp	Tyr		Leu	Asn	Leu	Cys		Lys	Met	Ala	Glu		Tyr	Lys				
	CAC	440	ccc	135	CTC	CTC	መረጥ	TCC	140	CTC	ACC.	440	CAC	145	ccc	TCC	717			
		AAC	_	_			_	_			_			_		_	717			
	чэһ	Asn	150	ıyı	va I	val	Jei	155	шS	val	Jei	licn	160	ıyı	ary	CyS				
	CAC	AAC		TTC	GAC	TAC	TCC		GAT	GCT	GAG	CGC		TTC	CAG	AAG	765			
		Asn															. 33			
		165					170					175								
	TGG	TGC	GAG	AAG	AAG	TAC	GGC	ACC	ATC	GAC	GCC	GTC	AAT	GAC	GCC	TGG	813			
	Trp	Cys	Glu	Lys	Lys	Tyr	Gly	Thr	lle	Asp	Ala	Val	Asn	Asp	Ala	Trp				
	180					185					190					195				

GGC	ACC	GCC	TTC	TGG	GCG	CAG	CGC	ATG	AAC	AAC	TTC	TCC	GAG	ATC	ATC	861
Gly	Thr	Ala	Phe	Trp	Ala	Gln	Arg	Met	Asn	Asn	Phe	Ser	Glu	lle	lle	
				200					205					210		
CCG	CCG	CGC	TTC	ATC	GGC	GAT	GGC	AAC	TTC	ATG	AAC	CCG	GGC	AAA	CTG	909
Pro	Pro	Arg	Phe	lle	Gly	Asp	Gly	Asn	Phe	Met	Asn	Pro	Gly	Lys	Leu	
			215					220					225			
CTT	GAC	TGG	AAG	CGC	TTC	AGC	TCC	GAC	GCC	CTG	CTC	GAC	TTT	TAC	AAG	957
Leu	Asp	Trp	Lys	Arg	Phe	Ser	Ser	Asp	Ala	Leu	Leu	Asp	Phe	Tyr	Lys	
		230					235					240				
GCC	GAG	CGC	GAC	GTC	CTG	CTC	GAG	ATC	GCC	CCC	AAG	CCG	CAG	ACC	ACC	1005
Ala	Glu	Arg	Asp	Val	Leu	Leu	Glu	lle	Ala	Pro	Lys	Pro	$G1_{\rm B}$	Thr	Thr	
	245					250					255					
AAC	TTC	ATG	GTC	TCC	GCC	GGC	GGT	GCC	GGC	ATC	GAT	TAC	GAC	AAG	TGG	1053
Asn	Phe	Met	Val	Ser	Ala	Gly	Gly	Ala	Gly	11e	Asp	Tyr	Asp	Lys	Trp	
260					265					270					275	
GGT	TAC	GAC	GTG	GAC	TTC	GTG	TCC	AAC	GAT	${\sf CAC}$	TAC	TTC	ACT	CCT	GGC	1101
Gly	Tyr	Asp	Val	Asp	Phe	Val	Ser	Asn	Asp	His	Tyr	Phe	Thr	Pro	Gly	
				280					285					290		
GAA	GCT	CAC	TTC	GAC	GAA	CTG	GCT	TAC	TCG	${\tt GCC}$	TCC	CTG	TGC	GAC	GGC	1149
Glu	Ala	His	Phe	Asp	Glu	Leu	Ala	Tyr	Ser	Ala	Ser	Leu	Cys	Asp	Gly	
			295					300					305			
ATC	GCC	CGC	AAG	AAT	CCG	TGG	TTC	CTC	ATG	GAG	CAC	TCC	AGC	TCC	GCC	1197
11e	Ala	Arg	Lys	Asn	Pro	Trp	Phe	Leu	Met	Glu	His	Ser	Ser	Ser	Ala	
		310					315					320				
GTC	AAT	TGG	CGT	CCG	ATC	AAC	TAC	CGC	GTC	GAA	CCC	GGC	GAA	CTG	GTG	1245
Val	Asn	Trp	Arg	Pro	He	Asn	Tyr	Arg	Val	Glu	Pro	Gly	Glu	Leu	Val	
	325					330					335					
CGT	GAC	TCC	CTG	GCC	CAC	CTG	GCC	ATG	GGC	TCC	GAC	GCC	ATC	TGC	TAC	1293
Arg	Asp	Ser	Leu	Ala	His	Leu	Ala	Met	Gly	Ser	Asp	Ala	11e	Cys	Tyr	
340					345					350					355	
TTC	CAG	TGG	CGC	CAG	TCC	AAG	GCC	GGT	GCC	GAG	AAG	TGG	CAC	TCC	TCG	1341
Phe	Gl n	Trp	Arg	Gln	Ser	Lys	Ala	Gly	Ala	Glu	Lys	Trp	His	Ser	Ser	
				360					365					370		
	GTT															1389
Met	Val	Pro	His	Ala	Gly	Pro	Asp	Ser	Gln	11e	Phe	Arg	Asp	Val	Cys	
			375					380					385			
GAG	CTG	GGT	GCC	GAC	CTC	AAC	AAA	CTT	GCT	GAC	GAG	GGC	CTG	CTG	AGC	1437
Glu	Leu	Gly	Ala	Asp	Leu	Asn	Lys	Leu	Ala	Asp	Glu	Gly	Leu	Leu	Ser	
		390					395					400				
ACC	AAG	CTG	GTC	AAG	TCC	AAG	GTC	GCC	GTC	GTC	TTC	GAT	TAC	GAG	TCC	1485
Thr	Lys	Leu	Val	Lys	Ser	Lys	Val	Ala	Val	Val	Phe	Asp	Tyr	Glu	Ser	
	405					410					415					
CAG	TGG	GCT	ACG	GAA	CAC	ACC	GCC	ACG	CCT	ACT	CAG	GAG	GTA	CGC	CAT	1533
Gln	Trp	Ala	Thr	Glu	His	Thr	Ala	Thr	Pro	Thr	Gln	Glu	Val	Arg	His	
420					425					430					435	
	ACC															1581
Trp	Thr	Glu	Pro		Ala	Trp	Phe	Arg		Leu	Ala	Asp	Asn	_	Leu	
. ~-	a = :	a	a= -	440		-	00-		445	m ~ -	a	a · ·	m · -	450	000	
	GCA															1629
Thr	Δla	Acn	Val	Val	Pm	Va 1	Arg	Glv	Pro	Tro	Acn	Glu	Tvr	Glu	Ala	

			455					460					465			
GTC	GTG	CTG	CCG	AGC	CTG	ACC	ATC	CTG	TCT	GAA	GAG	ACC	ACG	CGC	CGC	1677
Val	Va 1	Leu	Pro	Ser	Leu	Thr	He	Leu	Ser	Glu	Glu	Thr	Thr	Arg	Arg	
		470					475					480				
GTG	CGC	GAG	TAT	GTG	GCG	AAC	GGC	GGC	AAG	CTG	TTC	GŢG	ACC	TAC	TAC	1725
	Arg															
	485					490		·	·		495			·	•	
ACC	GGT	CTG	GTG	GAC	GAC		GAT	CAC	GTC	TGG	_	GGT	GGC	TAC	CCC	1773
	Gly															11.5
500	3				505	-0 -				510					515	
	TCC	ATC	CGT	GAC		GTG	GGC	GTG	CGC		GAG	GAA	TTC	GCC		1821
	Ser															1021
			74- 0	520					525					530		
ATG	GGC	AAC	GAC	-	CCC	GGT	GCC	ATG	-	CAC	CTC	GAC	TTG	-	AAC	1869
	Gly															1007
	41		535	. 110		41		540	,		Dou	, or	545	TIOF		
GGG	ACC	GTG		CAC	GAT	TTC	GCC		GTG	ATC	ACC	TCC		GCC	GAT	1917
	Thr															1711
41,	.,,,	550	1114		пор	1110	555	rio _F		110	****	560			пор	
ACC	GCT		GTG	GTT	GCT	TCC		AAG	GCT	GAT	AAG		ACC	GGT	TTC	1965
	Ala															1703
	565				1110	570	1110	D) O		, iop	575	,	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	WIJ.	1110	
GAC	GGC	GCT	ccc	GCC	ATC		GTC	AAC	GAC	ттт		GAC	GGC	AAG	сс	2013
	Gly															2013
580	urj	1110	110	ma	585	1111	141	11011	ч	590	dij	пор	dij	L) O	595	
	TAC	GTC	GGT	GCC		ርፐር	GGC	ርርT	GAG		TTG	GCC	ΔAG	AGC		2061
	Tyr															2001
iiia	1,7,1	70.1	uij	600	111.5	LCu	01)	111 5	605	uij	Lcu	niu	LJS	610	ьси	
ccc	GCG	ርፐር	CTG		GΔΔ	ርፐር	GGC	ΔΤ۲		۸۲۲	TCG	GCC	GΔΔ		GAT	2109
	Ala															2107
110	(HG	LCu	615	Gru	ara	LCu	dij	620	oru	ПД		mu	625	uph	пор	
ւնւ	GGC	GΔΔ		CTG	rcr	GTC	GAG		GCG	GAT	GΔG	۵GC		GΔG	۵۵۲	2157
	Gly															4171
വു	ury	630	vai	LCu	nı g	vai	635	nı g	ara	uoh	uru	640	dij	uru	non	
ር ልር	TTC		ፐፐር	CTC	ፐፐር	۸۸۲		۸۲۲	ርልር	GAT	CTG		ΔТТ	GTC	GAC	2205
	Phe															4400
1113	645	vu i	THE	beu	TIC	650	n S		ms	пор	655	niu	110	·u1	пор	
GTG	GAC	GGC	GAG	rrG	CTG		GCC	ፐርር	CTG	GCT		GTC	AAC	GAA	TCC	2253
	Asp															روں
660	пор	ui,	ara	110	665	, ai	mu	501	LCu	670	din	·uı	TIOH	uru	675	
	CAT	۸cc	ccc	ccc		CAG	cuc	۸۸۲	CCT		CTG	CTC	СТΔ	ΔAG		2301
	His															4701
uru	1113	1111		680	110	di ii	110	non	685	vai	LCu	·uı	vui	690	LCu	
ΤΔΔΔ	ሊልርር	:ፐር ገ			:r c/	ለ ፐፐ ር <i>ስ</i>	ል ልፐር	: rc/		rcc	CCTC	:ፐፐልሰ	crc /		CACGCC	2361
															ACCAT	2421
															ATTGAC	2481
															GATTCG	2541
															ACCGGT	2601
															AGCCAG	2661
															TCACC	2721

CAGGTTGCCA AGGACTTCGA GAAGGAGACC GGCATCAAGG TCGACCTGAA GAACGTCGGT 2781 ACCAACACCA AGGAATACAC TCAGCTGGAC AACGCCATTG AGGCTGGCTC TGGCGCTCCG 2841 GACGTCGCTC AGGTTGAGTA CTACGCCGTC CCGCAGTACG CCATCAAGGG CAACCTGCTG 2901 GACATCACCG ACAAGACCTC TGGTTACAAG GATTTCTACA CCCCTGGCCC GTGGGCTTCC 2961 GTGCAGTTCG CCGGCAAGGT CTACGGTCTG CCGATGGATT CCGGCCCAAT GGCCTTCTTC 3021 TACAACAAGG AAGTCTTCGA CAAGGCCGGC GTTGATGCCG AGCAGATCAA GACCTGGGAT 3081 CAGTACTACG ACGCCGCCAA GAAGATTCAC GCCCTCGGCG ACAACTACTA CATCACCTCC 3141 GACACCGGCG ACGCCGGCTT CTTCGACTCC ATGACCTGGC TGGCCGGCGC CAAGCCGTTC 3201 CAGACCTCCT CCGATGGTTC CGAAGTCACC GTCAACCTGA CCGAAGACAA GGGCGTCAAG 3261 ACCTTCACCG ACTTCTGGCA GAAGCTGCTG GACGAGGGTC TGCTCGACAC CAAGACCGCC 3321 GGCTGGTCCG AGGATTGGTT CAAGGGCATG GTCGACGGCA CCATCGCCTC CCTGTTCACT 3381 GGCGCTTGGA TGCCTGCCAA CCTTGCTAAC TCCGCTGCTG ACGGTGCCGG CAAGTGGCGT 3441 GTGGCCCAGA TGCCGACCGC TGACGGCTCC ACCACCAACT CTGAGAACGG TGGTTCTTCG 3501 CTGGCTGTGC TCGCCTCCAC CAAGAAGGCT GATGCTGCTT ACCAGTTCAT CGAGTACGCC 3561 AACCATGGTG CTGGTGTGGC CACTCGTGTG GCTGGCGGCG CCTTCCCGGC TGACAAGGCC 3621 TCCCTGGAAA AGGACTCCTT CAAGAACGCC ACCACCGTGA AGAACGCCGA TGGTCAGGAT 3681 GTTGACTACT TCGGTGGTCA GAAGTACAAC GAGGTTCTGG CTCAGGCTGC TGAGAACGTG 3741 TCCTCCGGCT ACCAGTTCCT GCCCTTCGAG GTCAAGGCCC GCACCATCTT CGGCGACTAC 3801 TTTGGCAAGT CCTACACCGG TGACCAGAAG CTGAGCGACG GTGTCGCTGC TTGGCAAAAG 3861 GCCCTGCAG 3870

【図面の簡単な説明】

【図1】プラスミドpTI-BB1-9. 6の構築を示す説明図である。

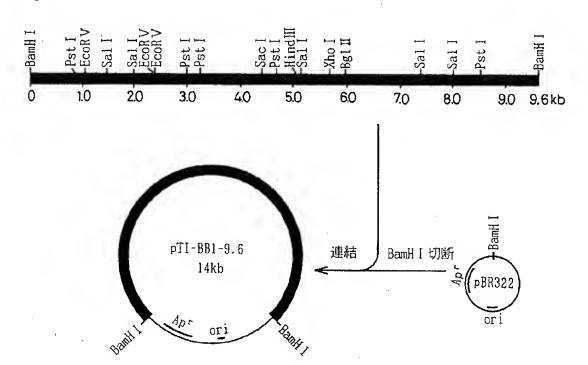
【図2】プラスミドpTI-BB2-4.9の構築を示

す説明図である。

【図3】プラスミドpTI-BB1-3.8の構築を示した説明図である。

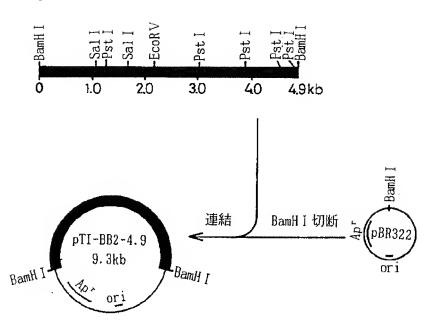
【図1】

bga I -9.6

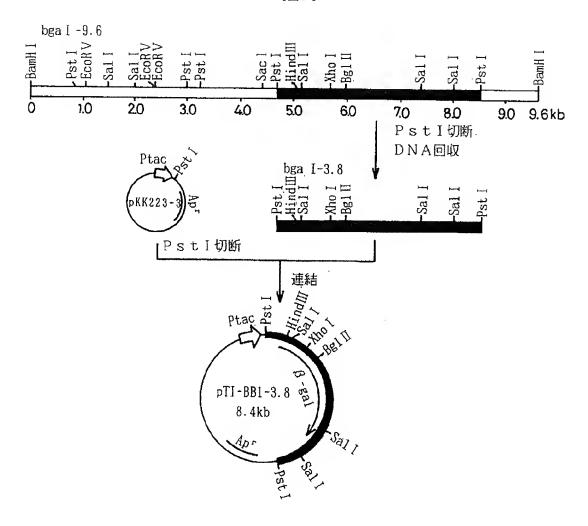


【図2】

bga II -4.9



【図3】



フロントページの続き

 (51) Int. Cl.5
 識別記号
 庁内整理番号
 F I
 技術表示箇所

 C 1 2 R
 1:01)

(C12N 9/38

C12R 1:19)